

## 三陸復興の地域課題についてのスタディツアー

### Study Tour for Revitalization of the Sanriku Region and Regional Development.

藤室玲治

東北大学

**概要**：東北大学の課外・ボランティア活動支援センターでは、東日本大震災被災地でのボランティア活動から学生が得た学びを、正課の授業にも活かすことを目的として「サービス・ラーニング」科目の開発・実施に取り組んだ。2017年度に開講した「三陸復興の地域課題と日本の未来」は、東北大学の学生ボランティア団体である「ぽかぽか」がこれまでに岩手県陸前高田市での活動で学んだことをベースに構想された。

**abstract** : Center for Service Learning and Extracurricular Activities, Tohoku University worked on the development and implementation of Service-learning subjects, with the aim of making use of the students' learning gained from the volunteer activities in the disaster area of the East Japan great earthquake. "Study Tour for Revitalization of the Sanriku Region and Regional Development." that was held in 2017 is based on what Tohoku University student volunteer group "Poca-poca" has learned through activities in Rikuzentakata City, Iwate Prefecture It was.

#### 1. はじめに

本稿では、筆者が2018年10月～2月に書けて開講した東北大学の展開ゼミ「三陸復興の地域課題」という授業において陸前高田市もそのフィールドとして含むスタディツアーを実施した。陸前高田市をフィールドとして、どのような学びが可能であるかについての参考として、授業の背景、授業のねらい、学生がフィールドから学んだもの等について報告していく。

ただし、この要旨を執筆している時点（2018年2月5日）では、まだ陸前高田市でのフィールドワークは実施していないため（2月13日～15日に実施予定）、フィールドワークの様子については当日に口頭とスライドで報告することとなる。本稿では、このようなスタディツアーを企画した背景と、展開ゼミ「三陸復興の地域課題」のねらいについてのみ述べることとする。

#### 2. 課外・ボランティア活動支援センターとサービス・ラーニング

東北大学では2014年に「高度教養教育・学生支援機構」が設置され、その業務センターとして「課外・ボランティア活動支援センター」（以下、支援センター）が設置された。東北大学生の課外活動と、東日本大震災以来、活発になった学生ボランティア活動の支援を行うとともに「被災地復興および地域社会・国際社会に貢献し得る人材の育成を目的とした、社会貢献型の体験学習（サービスラーニング）の企画・実施」も目的としている。

東北大学では、2011年6月に、東日本大震災の学生ボランティア活動支援を目的とした全学組織「東日本大震災学生ボランティア支援室」（以下、支援室）を発足させたが、この支援室では2012年度から、東北大学生に被災地の状況を学んでもらい、またボランティア活動に興味を持ってもらうための「スタディツアー」「ボランティアツアー」を、岩手県・宮城県・福島県の被災3県で実施してきた。こうしたツアーは、東北大学の主催ではあっても単位にならない「課外活動」という位置付けであったが、学生たちの関心は高く、多くの参加があった。【表1】にツアーの実施回数・参加学生のべ人数等をまとめた。

これらのツアーに参加した学生は被災地の現状を学ぶとともに、様々な学びを得て成長を遂げた。その様子に接した教員により、こうした取り組みを正課の授業に反映させる取り組みが始まった。2013年には1年生を対象とした「基礎ゼミ」として「震災復興とボランティア活動」（受講生22名、当時・法学研究科准教授の米村慈人先生が担当）が開講され、受講生は東日本大震災学生ボランティア支援室が主催するボランティアツアーやスタディツアーに参加し、その後、自分たちで夏休みにボランティアツアー・スタディツアーを開講することにチャレンジした。

その後も支援室の取り組みは支援センターに引き継がれ、テーマややり方を変えながら、被災地や社会への「サービス」を通しての学びを重視する様々な「サービス・ラーニング科目」を、東日本大震災のボランティア活動支援の経験を活かしながら、開発してきた。2017年度中に支援センターが開講した「サービス・ラーニング科目」を【表2】にまとめた。

表 1 東北大学で開催したボランティアツアー・スタディツアー実施回数とのべ参加学生数

年度	実施回数	参加学生数
2012 年度	13 回	のべ 376 人
2013 年度	31 回	のべ 451 人
2014 年度	42 回	のべ 550 人
2015 年度	49 回	のべ 713 人
2016 年度	66 回	のべ 664 人

表 2 2017 年度 東北大学 課外・ボランティア活動支援センターが提供するサービス・ラーニング科目群

科目群	授業題目	担当教員	開講時期(受講生数)
基幹科目	東日本大震災からみる現代日本社会	藤室玲治,西出優子,江口怜	1S・火 1 (36) 2S・月 4 (15)
基礎ゼミ	ボランティア活動を通して,被災者の生活再建・コミュニティ形成の課題を知る	藤室玲治	1S・月 3・4 (14)
	仙台の地域課題を解決するアイデアを考えよう	藤室玲治	1S・木 5 (18)
	共生社会に向けたボランティア活動—人権・多様性・エンパワメント	藤室玲治,江口怜	1S・月 5 (11)
	震災をどう伝えるか—震災遺構の保存・活用と,震災の記憶の伝承の課題を学ぶ	藤室玲治	1S・集中 (10)
展開ゼミ	ボランティア活動を通して,被災者の生活再建・コミュニティ形成の課題を学ぶ	藤室玲治	2S・4S・木 5 (6)
	三陸復興の地域課題と日本の未来	藤室玲治	2S・4S・集中 (9)
	福島における人権保障と共生の課題—原発事故以降を生きる人々に寄り添う	藤室玲治,江口怜	2S・集中 (6)

※開講時期の S は「セメスター」の略。1セメは 1 年生前期(4 月～),2セメは 2 年生後期(10 月～)にあたる。

【表 2】の内,展開ゼミの中にある「三陸復興の地域課題と日本の未来」が,今回実践報告する授業である。開講したのは今年度がはじめてとなる。この授業の準備・実施にあたっては,東北大学の学生ボランティアサークル「ぼかぼか」による岩手県陸前高田市での活動から学んだことが多い。

### 3. 岩手県での「東北大学ぼかぼか」の活動

支援室では 2012 年 9 月より「陸前高田ボランティアツアー」を実施しており,この 2018 年 2 月には 55 回目のツアーを実施した。当初は神戸大学学生ボランティア支援室主催の「東北ボランティアバス」の企画に乗っからせていただく形で始まり,また 2013 年 8 月から岩手大学三陸復興支援機構ボランティア班とも連携して実施していた時期がある。現在は,このツアーの継続的な実施から生まれた学生ボランティア団体「東北大学 陸前高田応援サークルぼかぼか」が,支援センターと連携しながら実施している。月に 1 回程度のペースで,1 回あたりの参加者は約 10 名程の規模である。当初は大学からの資金援助があったが,現在では,Yahoo!基金や日本財団学生ボランティアセンターなどから「ぼかぼか」が学生団体として助成を受けて実施している。当初は大学の企画としてはじまったボランティアツアーが,学生の自主性による学生団体の取り組みとなり,現在は経済的にも独立している。

「ぼかぼか」の主な活動内容は,仮設住宅や復興住宅でのサロン活動で,集会所などで足湯や折り紙を通して住民の方々と交流している。他に,陸前高田市の NPO 法人パクトが実施する「みちくさルーム」へのボランティア参加や,松原を守る会のお手伝い,高田小学生対象の学習支援,高田町上和野町内会における「動く七夕」や権現舞(虎舞)等の伝統行事の実施手伝い等も行う。

筆者は,この陸前高田ボランティアツアーの引率として,継続的に陸前高田市に関わってきた。その中で,「ぼかぼか」の学生が,仮設住宅や復興住宅にお住まいの方々と交流,あるいは全国から来る支援者の方々と交流から,以下に列挙するような学びを得ていると感じてきた。

- (1) 防災や避難生活に関する教訓。
- (2) 被災体験等のお話から学ぶ,命や家族,日常生活の大切さ。
- (3) ご家族や友人などを亡くしたことによる悲嘆からの回復の困難,複雑性悲嘆による回想や不眠,その他の反応への理解。
- (4) 生活再建のお話から学ぶ,仮設住宅や復興住宅の課題,多世代同居の減少や共働きの増加など家族関係の変化,子育ての難しさ,進学や就職の課題,認知症や孤独死の課題など,被災地での生活の課題
- (5) 以前の陸前高田市の様子などを住民の方々から聞くことで,かつてのコミュニティへの愛着や伝統行事の地域社会における役割,新たなコミュニティ形成の難しさとの必要性についての学び。
- (6) 一本松保存の是非や,防潮堤の必要性,嵩上げ地の課題,市役所の位置問題等,復興に関わる住民の方々の,時に対立する様々な意見を聞いて考えることによる,復興の論点と課題についての学び。
- (7) 岩手県と宮城県と福島県の比較,あるいは陸前高田市と大船渡市などの比較等,東日本大震災の被災地同士の被害と復興を比較して理解する学び。
- (8) 阪神・淡路大震災や中越地震,熊本地震と,東日本大震災を比較して理解する学び。あるいはチリ地震津波や昭

和三陸津波、明治三陸津波と比較して理解する学び、あるいは国外の災害などと比較して理解する学び。

(9) 上記の様々な問題に共通して関わる人口減少等の日本社会全体のマクロな動向についての理解。

(10) 上記の様々な課題に取り組む人々（仮設住宅や復興住宅の自治会長、地域組織のリーダー、NPO やボランティアで活動する人々、地域の商業的リーダー等）と、その取り組み方についての理解。

以上、大まかに学生が陸前高田市で得ていると思われる学びを、筆者なりに分類して書き出したが、まだまだ書き落としている事柄も多いと思う。

ボランティアツアーでは、「ぼかぼか」メンバー以外の、はじめて陸前高田市を訪問する学生も募集して参加してもらうため、そうした学生に陸前高田市の現状や課題を「ぼかぼか」メンバー自身がレクチャーすることも多い。また被災当時のお話や、今の課題について学ぶために、陸前高田市役所の方からレクチャーを受けたり、語り部の方や、地域のリーダーの方からお話をうかがう機会も設けている。このような取り組みが、陸前高田市における学生の学びを深めている。

#### 4. 展開ゼミ「三陸復興の地域課題と日本の未来」

こうした「ぼかぼか」の学生がボランティア活動を通して得ている学びを、正課の授業でも提供したいと考えて2017年10月から筆者が開講したのが展開ゼミ「三陸復興の地域課題と日本の未来」である。受講生は9名である。10月から1月までの期間、週に1回（月曜日5限目、16:20~17:50）のゼミ形式の授業で、各自が知りたい「三陸復興の地域課題」について、調査した内容を報告し、その報告をもとに、2月13日~15日の2泊3日のスタディツアーを学生同士で話し合っ立案した。

スタディツアーで訪問する自治体は、石巻市、女川町、陸前高田市、大船渡市、釜石市と5つの自治体であるが、2泊宿泊し、最も長い時間滞在し、多くの方のお話をうかがうのが陸前高田市となる。スタディツアーの大まかなスケジュールは、以下の通りである。

2/13 (火)	8:00	東北大学を出発
	9:30	石巻市にてフィッシャーマンズジャパン事務所を訪問、お話をうかがう
	11:30	女川町において「命の石碑」を視察、関係者からお話をうかがう
	13:30	大川小学校（石巻市）に到着。視察。ご遺族の方からお話をうかがう
	17:30	陸前高田市に到着。アバッセで夕ご飯
	20:00	陸前高田市の二又復興交流センターに到着。ふりかえりミーティング、宿泊
2/14 (水)	8:30	奇跡の一本松を視察、アバッセ（陸前高田市の商店街）訪問
	10:00	陸前高田市役所にて復興状況についてレクチャーを受ける
	12:00	アバッセにて昼食
	13:00	陸前高田市内の仮設住宅や復興住宅を視察。住民の方からお話をうかがう
	15:30	陸前高田ドライビングスクール着。キャッセン大船渡社長の田村満さんのお話をうかがう
	18:00	大船渡温泉入浴、キャッセン大船渡で夕食等
20:00	二又復興交流センターに戻る。ふりかえりミーティング、宿泊	
2/15 (木)	9:20	盛駅に到着。大船渡市の盛一釜石で三陸鉄道の震災学習列車に乗る その後、釜石市役所等視察。昼食後に盛に戻る
	14:00	二又復興交流センターで石木幹人先生のお話をうかがう
	16:00	ふりかえりミーティング
	17:30	二又復興交流センターを出発
	20:30	東北大学に到着、解散

この要旨を執筆している時点（2018年2月5日）では、まだ陸前高田市でのフィールドワークは実施していないため、フィールドワークの様子と、そこから学生が学んだ内容については、口頭とスライドで報告させていただく。

#### 参考文献

東北大学東日本大震災学生ボランティア支援室編『ボランティアへの挑戦—東北大学学生ボランティア活動5年の記録』, 2016.  
東北大学高度教養教育・学生支援機構 課外・ボランティア活動支援センター編『課外・ボランティア活動支援センター紀要』, vol. 1, 2017

#### 著者紹介

藤室玲治：東北大学 高度教養教育・学生支援機構 課外・ボランティア活動支援センター 特任准教授。専門は日本近現代史。町内会・自治会研究、コミュニティ政策。2011年4月、神戸大学に在籍中に陸前高田市において支援活動に取り組む。その後、2013年に東北大学に異動し、学生ボランティアとともに、仮設住宅・復興住宅等でのサロン活動実施、高田町上和野町内会での防災やまちづくりに関するワークショップ実施などの活動に取り組む。  
所属大学・機関等住所：〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内41, E-mail:rei.ji.fujimuro@gmail.com

